

新しい命による献げもの

(ローマ6・12～14)

一、「からだ」をめぐる

12節に「からだ」と書かれています。何を指すのでしょうか。私たち一人ひとりの「からだ」です。そうしますと、**「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。」**を読んで、あるいは聞いて、「からだ」というのは、神の御意思に逆らう悪ものだ」と思われるかもしれません。ですが、ここで語られている「からだ」は、「生まれながらの人」「神の御意思から離れている私」の意味です。

旧約聖書によれば、からだとたましいは切り離せないものです。旧約における「たましい(ネフェシユ)」は、「いのち」とか「心」とも訳されていることばです。ですが私たちは「たましい」と聞くと、霊魂不滅という意味の「たましい」を思い浮かべてしまいがちです。一方、旧約が語っているのは、「からだ」と「たましい」は一体であって、切り離せないことです。ちょうど、「からだ」と「心」が切り離せないのと同じです。あるいは、生きている「からだ」と「いのち」が切り離せないのと同じです。それを知らずと、**「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、か**

らだの欲望に従ってはいけません。」の意味が見えてまいります。ここでパウロが語っている「からだ」は、「生まれながらの人」の意味です。言い換えるなら、罪人という、神から離れている人間の姿です。その、神から離れている人間は、主イエス・キリストによってなされた御業のゆえに贖われました。主イエス・キリストを信じる者は、神の救いの中に入れられました。どういう状態なのでしょう。それは、自分という「からだ」に神から離れている性質が残っているものの、大きな意味で神のいのちの中に入れられている状態です。

二、「罪に支配されることはない

ところで人間は、主イエス・キリストを信じて聖霊に満たされる経験をし、その後何十年も経っても、ふと他者のことがねたましくなったり、人から受けた仕打ちを思い返すたびに怒りが込み上げてきたりするものです。この現実を見て、「私は信仰が浅い」と言って、自分を責めるのはよくありません。キリストを信じた人は、罪赦された罪人であって、聖人になったのではないからです。そういう自分を知って、「私にだめな人間だ、未熟な者だ」と思うのではなく、「こんな私を、神がキリストにあって受け入れておられる」と感謝したら良いです。

14節に力強いみことばが語られています。

ます。**「罪があなたがたを支配することはないからです。」**が、そうです。

神によって創造された最初の人であり、人類の代表とも言えるアダムは、神から離れる道を選び、私たち人類に罪が入って来しました。罪、すなわち神の御意思からズレている状態は、人間が何をしても直せません。罪の問題は、神が遣わされた救い主であり、神にして人であられた主イエス・キリストが十字架で贖いの死を遂げられて、解決されました。解決されたと言っても、自動的にすべての人に適用されるわけではありません。信じる者は、永遠のいのちをいのちに移っています。そういうわけで、主イエス・キリストを信じる者は、罪に支配されることはありません。

三、新しい命による献げもの

13節をご覧ください。**「また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。」**とあります。**「あなたがたの手足を」**は、新共同訳と聖書協会共同訳は**「あなたがたの五体を」**と訳出しています。すなわち12節の「からだ」と同じ意味です。パウロが「からだ」にこだわっていることが分かります。

私たちの「からだ」は、すなわち全身全霊は、主イエス・キリストを信じたからといって聖人になるわけではありません。ですが、キリストを救い主として信じた時に、罪赦され、罪からきよめられ、神のものとなりました。すなわち、キリストを信じるだけで救われるのです。そして、死からいのちに移されています。だから、私たちの手足を、すなわち思いや行動を、不義の道具として罪に献げてはならないのです。

では何をしたら良いのでしょうか。**「むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。」**と語られています。**「死者の中から生かされた者」とは、主イエス・キリストを信じる者の姿です。**

皆さま。神さまに喜ばれることは何でしょうか。分かるはずですが、分かるから逃れないでください。ごまかさないでください。主は語られています。**「あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。」**また、**「あなたがたの中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい」と、聖霊が語られています。**主イエスと出会って、このからだを、すなわち全身全霊を、神に喜ばれる、聖なる生きた献げものとして献げるなら、かぐわしい献げものになります。